

群馬県内の道の駅にて“おもち祭り”を開催！

2019年10月5日(土)に群馬県内の道の駅・ハイウェイオアシス「ららん藤岡」にて、スポーツには“元気の源”おもちパワー！「おもち祭り」を開催しました。

家族連れが一日中楽しめる人気スポットでおもち祭りを開催！

2019年のおもち祭りの開催地となったのは、群馬県藤岡市内の道の駅・ハイウェイオアシス「ららん藤岡」です。その名のとおり、一般道(県道13号線)からアクセスできる“道の駅”であり、上信越自動車道上り線の藤岡パーキングエリアから直接訪れることのできる“ハイウェイオアシス”でもあります。過去には関東「道の駅」連絡会が実施する『関東の好きな道の駅ランキング』で七年連続一位を獲得したほどの人気スポットで、開催日当日も朝から多くの家族客で賑わいました。

午前11時、司会進行役のFM群馬アナウンサー揚妻由璃子さんのアナウンスでおもち祭りがスタート。まずは切り餅を焼いて砂糖醤油で味付けした焼きもちの配布が始まりました。香ばしい匂いが鼻腔をくすぐり、すぐに行列が出来上がるほどの人気です。

藤岡市はトマトやイチゴ、洋ランなどの特産品が有名で、ららん藤岡内には地場産品を中心に扱う農産物直売所があり、連日開店時間から多くの買い物客で賑わいます。

野菜の購入後におもち祭りのイベント会場へ訪れた主婦から、「ここでおもちを食べられるなんて思ってもいなかった。今日は午後からも用事があって慌ただしいけど、こんな日はおもちで手軽にお昼を済ませるのもいいわね」と好評でした。

さらに、11時15分からは地元FM群馬による現地からの生中継インタビューが入り、ラジオリスナーの皆様へ向けて、おもち祭りへの来場を呼びかけました。

メインイベントの大もちつき大会が開幕！

今年は11時45分と14時からの計2回の大もちつき大会が組まれており、1回目では全国餅工業協同組合の樋口元剛理事長が登壇し、ご挨拶とともに国内産水稲もち米100%で作られている商品に表示している全餅工の八角形のマークをご紹介しました。

続いて、全餅工加盟各社の若手社員で編成される「全餅工合同もちつき隊」が呼び込まれ、お待ちかねのお餅つきがスタートです。



受け継がれる匠の技！全餅工の精鋭たちが勇壮な餅つきを披露！

今回、全餅工合同もちつき隊6名の平均年齢はちょうど30歳。まさに働き盛りの年代です。全国餅工業協同組合が昭和49年に設立されて、今年で45年。おもちの良さや素晴らしさを知り尽くしたベテランから、若い社員へとその英知は継承されていき、日本古来からの餅文化が大切に守られていきます。

ステージ上では、解説役の全餅工の山谷氏による説明を交えながら、もち米をこねる「目つぶし」からはじまり、「仕上げつき」に至る工程を一般の来場客の皆様へ披露しました。

その後は、こどもたちによる「ちびっこもちつき体験」です。希望者が多く、すべてのちびっこに体験して頂くことは出来ませんでしたが、本格的な臼と杵による餅つき体験はとても好評でした。小さな掌に残る杵の感触と餅文化にふれ合った記憶をいつまでも覚えていて頂けたらと思います。



その他にも、会場内には餅に関する簡単なクイズに答えて参加する「大抽選会」や、運試しの「おみくじ」、子ども向けの臼と杵や本物そっくりの焼き餅の模型を設置した「記念写真コーナー」などをご用意しました。

大抽選会では、1等＝お餅一年分(2組)、2等＝お餅半年分(6組)に加え、今年は特別賞として巨大な鏡餅もプレゼント。当選者には東京都や大阪府から遊びに訪れた方々も含まれており、旅先での思わぬ吉運に驚かれているようでした。

また、1等を引き当てた2組はいずれも育ち盛りの小学生のお子さんがある家族連れで、どちらも毎年お正月には電動餅つき器でお餅をつくほどの愛好家。一方のご家族から、奥様の実家(山形)で食べるずんだ餅や納豆餅のおいしさを聞かせて頂き、“おもち愛”の深さを実感しました。

全国餅工業協同組合では、今後も「10月10日はおもちの日」であることと同時に、一年中いつでも活用できるお餅の魅力や日本古来の餅文化の大切さを、多くの皆様に向けて発信してまいります。

